

外観からアプローチする社会復帰支援

～「元気な顔」を作ること～

1990年代のことですが、刑務所や少年院などの収容施設から退所する人達を見る機会がありました。そのとき、メイクの専門家の目から見て、「入所時と少しも変わらない外観で出るのか」という印象を受けました。施設では、技術を身につけたり、教育を受けたり、薬物依存から脱却するなど、人の内面をケアするために大変な努力が行われています。それは言うまでもなく大事なことなのですが、他方で外観のケアをしなくていいのだろうかという疑問を感じたのです。見た目が変わらないということで、周りの反応や集まってくる人達が変わらない可能性があると思いました。そのことを法務省の方にお話しする機会があり、それがきっかけで、2009年から両全会を訪問させていただき、自立を目指す女性入所者の方々に就職のためのメイク講習を行ってきました。

メイクの専門家の目から見て、特に女性の場合、技術や教育というような人間の中味だけでなく、化粧や髪型や服装などの外観が変わることが社会復帰にとって大きな意味があると思っています。外観が変わることによって周囲への印象が変わり、それによって本人の意識とともに、他人への接し方も次第に変わっていくのです。

私は、顔にあざや傷のある方、病気治療の副作用によるしみ・くすみなどに悩む方にメイクを提供するという仕事をしています。常に「元気な顔」を作ること心をかけています。美しさは年齢や世代によりそれぞれ異なります。しかし、本人が満足できる顔になることで、女性たちの心や行動が前向きになることは、年齢や世代を超えて共通します。

両全会でも、普段の仕事と同じように、一人ひとりに対して、どうしたら「元気な顔」を作って差し上げることができるのかを念頭においてメイクをしています。

この間、施設を出られた方の就職率が100%になったとか、再犯が減ったとか、職を得ることができた高齢の方がその会社の就業マニュアルのモデルに選ばれたなどの嬉しいニュースに触れてきました。お会いした方々の社会復帰に少しでもお役に立つことができたなら、とても名誉なことだと思っています。微力ながら、「元気な顔」を作るために今後も全力を尽くしていきます。